



# 宇美町

歴史ロマンの

旅

ガイドブック



宇美町観光情報サイト  
<https://www.town.umi.lg.jp/site/kankousab-site/>



宇美町公式 Instagram 「うみんすたぐらむ」  
@umi\_nstagram

## 宇美町歴史ロマンの旅ガイドブック

編集・発行：宇美町  
〒811-2192 福岡県糟屋郡宇美町宇美五丁目1番1号  
Tel 092-932-1111  
発行日：令和7年(2025年)3月21日  
印刷：井上紙工印刷株式会社

# CONTENTS

- 02 宇美町歴史ロマンの旅へようこそ
- 04 宇美八幡宮  
福岡県指定有形民俗文化財  
安産信仰に関する伝説地
- 12 特別史跡 大野城跡  
四王寺山とその歴史的重層性
- 20 国指定史跡 光正寺古墳  
邪馬台国の国々  
「不弥国」の候補地 宇美
- 22 宇美の城跡  
宇美を守った在地武士の城  
唐山城跡
- 24 宇美町にあった二つの鉄道路線  
博多湾鉄道(現 JR香椎線)と  
筑前参宮鉄道(旧 国鉄勝田線)
- 26 意外と知られていない宇美の歴史  
筥崎宮と極楽寺跡
- 28 町の懐かしい風景  
古写真から見る町の移り変わり
- 30 宇美町立歴史民俗資料館  
宇美町の歴史を学ぶならココ!
- 32 指定文化財一覧表
- 33 年表
- 37 散策マップ

## 凡例

- ・図や写真の掲載許可を受けたものについては、所蔵者名を記した。
- ・読みやすさを考慮し、必要な箇所については、文献名は「」を、固有名詞には「」を付した。また、略称を用いた箇所もある。
- ・ふりがなについて、複数読み方があるものには( )をつけた。
- ・協力者及び参考文献については、36ページに記載した。
- ・年表の各項目における出典については、原則として省略したが、史料により記述に違いがある箇所については、出典資料名を記載した。
- ・執筆は、参考文献等をもとに、シティプロモーション課学芸員 松尾尚哉が行った。
- ・本誌の無断転載は禁止する。

“今”  
“と”  
“未来”  
“を創る”  
“歴史”  
“の旅へ”。

# 宇美町歴史ロマンの旅へようこそ

宇美町は、福岡都市圏に位置する糟屋郡の町で、西は福岡市と大野城市、北西は志免町、北は須恵町、東は飯塚市、南は太宰府市と筑紫野市に隣接しています。

東には三郡山系の山々、南には四王寺山脈、西には井野山というように、豊かな自然に囲まれた町であるとともに、博多駅から車で約30分、福岡空港から車で約20分と、福岡市内からのアクセスも良好な町です。

明治二十二年（一八八九年）、宇美・炭焼・四王寺・井野の4つの村が合併し、宇美村が誕生、その後、大正九年（一九二〇年）に町制施行し、宇美町となりました。

そして、令和二年（二〇二〇年）には、糟屋郡で最初に町制施行一〇〇周年という大きな節目の年を迎えました。

町の歴史は古く、約2万5千年頃の石器が町内で発見されていることから、この頃から宇美で人類が狩猟活動を始めたことがわかっています。

宇美小学校付近の土角遺跡では、縄文時代の土坑と石器が見つかっており、この帯で縄文人が生活していたことがうかがえます。

その後、宇美川と井野川流域では、弥生時代の集落遺跡が発見されています。

古墳時代では、3世紀後半頃に築造された糟屋郡内最大で最古級の前方後円墳である光正寺古墳が注目されます。光正寺古墳築造以降も、神領・浦尻古墳群が宇美川流域に連続と築造されていきます。

天智天皇四年（665年）、現在の四王寺山に、大野城が築城されます。『日本書紀』にその築城記録が残るこの城は、文献上での日本最古の古代山城といわれています。この四王寺山は、城と「守りの山」から、四天王寺の建立、経塚の造営、三十三体石仏の建立というように「祈りの山」へ性格を変えていきます。そしてこの信仰は、今も四王寺毘沙門詣りという伝統行事としても受け継がれています。四王寺山がもつ歴史は、とても興味深いものです。

安産信仰で有名な宇美八幡宮。宇美八幡宮が初めて確実な史料に登場するのは、平安時代後期の天喜三年（一〇五五年）のこと。鎌倉時代の歴史書『今鏡』にも、近衛天皇のご誕生祈願と伝わる記述があることから、安産信仰の歴史は古くから続いていることがわかります。

鎌倉時代に起きた事件、蒙古襲来（元寇）。『八幡愚童訓』には、管崎宮の御神体が宇美障子岳の極楽寺へ遷座してきたことが記述されており、この歴史は、現在も管崎宮と極楽寺地区を結ぶ縁となっています。

中世・戦国時代に入ると、宇美も戦火の渦に巻き込まれていきます。井野山には唐山城が築城され、宇美の地を守っていたことがわかっています。

江戸時代には、福岡藩主の黒田氏が、荒廃した宇美八幡宮の再建・寄進を行っています。特に四代藩主の黒田綱政は、宇美八幡宮への信仰心が厚く、宇美八幡宮の聖母宮は、宝永三年（一七〇六年）に綱政が造営を行ったものです。

幕末、日本全土が激動の渦の中、尊王攘夷派の公家である三条実美ら七人が京から追放されます。このうち五人は、太宰府に蟄居させられましたが、警備が徐々に弱まる中、三条実美らは宇美八幡宮を参拝したという記録が残っています。新しい時代の構想を、「こゝ宇美の地で練っていたのかもしれない」。

明治時代になると、日本各地で鉄道敷設が計画されていきます。宇美町にも、今も走る香椎線と廃線となった勝田線という二つの路線が開通します。太宰府までを結ぶ幻となった鉄道計画もあったことから、当時の人々が鉄道にかけた期待の大きさをうかがい知ることができます。

宇美町には、たくさん興味深い歴史があります。この歴史そのものが、宇美の先人たちが守り継承してきた、町にとって貴重な文化財です。

さあ、宇美町歴史ロマンの旅へ出かけましょう。

宇美町長 安川 茂伸



# 宇美八幡宮

福岡県指定有形民俗文化財  
安産信仰に関する伝説地



人々の笑顔に包まれた宇美八幡宮



宇美八幡宮

【蚊田の森】  
境内にあるクスの木25本が蚊田の森として、福岡県指定天然記念物に指定されています。蚊田は、宇美の昔の地名と言われています。

クスの杜に育まれた境内（背後に砲衣ヶ浦がある）

二千年以上続く鎮守の杜に育まれた子安の杜「宇美八幡宮」。  
宇美町の中心地に鎮座するこの神社は、安産信仰に関する伝説地として、たくさんの人々の信仰を集めており、境内は、今日もたくさんの人々の笑顔に包まれている。

宇美の人々によって守り受け継がれてきた、この伝統ある「宇美八幡宮」の歴史と魅力を紹介。

## 安産信仰の八幡宮

宇美八幡宮は、応神天皇・神功皇后の母子神を主祭神とし、玉依姫命・住吉大神・伊弉諾尊の五座をお祀りする安産信仰で有名な八幡宮です。

境内全体が、福岡県指定有形民俗文化財「宇美八幡宮の安産信仰に関する伝説地」に指定されており、安産祈願やお宮参りに訪れる参拝の人々で賑わっています。

宇美川をはさんだ北側の丘陵上に砲衣ヶ浦神殿、南西にまつすぐ向かった井野山のふもとに井野頓宮という御旅所があります。

## その起源と歴史

『日本書紀』には、「誉田天皇（応神天皇）を筑紫の蚊田に生み給う時今其の

幡宮の別当である清成にさせるように命じたものが残っています。

この頃から、宇美八幡宮をはじめ、北部九州にある八幡宮が、京都の石清水八幡宮の管轄下に入ったということがわかります。

建久三年（二九二年）三月の「石清水検校成清讓状」という古文書には、「宇美宮 同領長野 田富 吉原 殖木

白水等庄」という記述があり、平安時代から鎌倉時代にかけて、宇美八幡宮は経済基盤となる荘園を、長野（糸島）・田富・吉原（志免）・植木（須恵）・白水（春日）一帯に所有していたことが読み取れます。

室町時代には、文明五年（一四七三年）銘の楼門再興の際の棟札写が残っており、これには「守護大宰小式藤原朝臣政尚」の名があることから、小式氏の影響下にあったことが読み取れます。戦国時代の天正二年（一五七四年）銘「宇美宮棟札写」には、社殿屋根葺き替えのこととが記されており、宇美宮大宮司の神武秀宗のほか、大友義鏡（宗麟）・戸次鑑連（道雪）の名がみられることから、大友氏の勢力下にあったと考えられます。なお、この頃、神武氏は、井野山に唐山城を築城するなど、次第に武士化していったこともわかっています（城跡を

産所をなづけて宇瀨という」、また、「古事記」には「其の御子あれます其の御子の産處をなづけて宇瀨という」という記述があり、神功皇后が応神天皇をご出産されたという伝説に由来します。この「産み」が「うみ」となり、宇美町の名前の由来となったという説もあります。

江戸時代に記された宇美八幡宮縁起等の資料には、敏達天皇の時代（五七二年～五八六年頃）に創建されたという、人々の認識としては、六世紀の後半頃の創建と伝えられてきたようです。

宇美八幡宮が初めて確実な史料に登場するのは、平安時代に入ってからになります。石清水文書「宮寺縁事抄」の天喜三年（一〇五五年）の記録には、当時、九州を統括していた大宰府が、関係諸国司に対し、筑前大分宮（飯塚市）・宇美宮、香春社（香春町）・千栗八幡宮（佐賀県みやき町）の雑務執行を、石清水八

参照）。

その後、九州を統一した豊臣秀吉により、宇美八幡宮の神領は没収されてしまいます。小早川隆景の入国後、一時は回復されたものの、小早川秀秋により再び没収されました。江戸時代に入り、黒田氏が入国した後は、元和三年（一六七一年）の黒田長政による本社・拜殿・楼門の修補から始まり、歴代藩主による造営寄進など、福岡藩による手厚い処遇を受けていることが分かっています（年表を参照）。

明治時代以降には、炭鉱業や酒造業などの実業家からも崇敬を集めており、昭和の鳥居には、炭鉱経営者として有名な麻生太吉や貝島太市の名が刻まれている、その様子をうかがい知ることができます。



5 拜殿



湯蓋の森

**【衣掛の森】**  
 高さ24メートル  
 幹周り(胸高周囲長)20メートル  
 社殿左奥側にある一本の大きなクスの木で、湯蓋の森と同じく、樹齢二千年以上と伝わる国指定天然記念物です。『八幡宮本紀』には、応神天皇ご誕生の際に、神功皇后がこの木に自分の衣を掛けられたという伝承からこの名がつけられたと記述されています。

衣掛の森

**【湯蓋の森】**  
 高さ24メートル  
 幹周り(胸高周囲長)15.7メートル  
 社殿右側にある樹齢二千年以上と伝わる一本の大きなクスの木で、国天然記念物に指定されています。江戸時代の記録『八幡宮本紀』には、応神天皇ご誕生の際、このクスの下で産湯を使わせたところ、枝葉が大いに生い茂り、湯釜に蓋を被せたように見えたという伝承からこの名がつけられたと記述されています。

古くから続く安産祈願

安産祈願の歴史も大変古いことが分かっています。平安時代後期の様子を記した歴史書『今鏡』には、「甕海(うづかい)のにははうみの宮 御産平安たのみあり」という記述があり、これが、近衛天皇のご誕生祈願であると伝えられています。

鎌倉時代には、後鳥羽上皇の寵愛を受けた藤原重子の安産祈願のため、石清水別当道清が、宇美八幡宮の槐の木を用いて、三寸八分の薬師像を作ったという記述が石清水文書にみられます。

江戸時代も流れは続き、寛政十一年(一七九九年)に、光格天皇の第四皇子で後の仁孝天皇(明治天皇の祖父)のご誕生祈願のために使者が宇美八幡宮へ来訪するなど、宮中との関係も深いといえます。

また、『黒田家譜』では、江戸時代福岡藩を治めた黒田家が、戦国時代に荒廃した宇美八幡宮の復興のため、社領寄附など支援をするともに、安産祈願を行っていたことが記されています。



子安の木 (槐の木)

**【子安の木】**  
 社殿左側に「子安の木」と呼ばれる槐の木があります。神功皇后が応神天皇をご出産された際、この槐の木の枝を逆に立て、それに取りすがった結果、安産であったという伝承から、安産信仰の対象となっています。

**【湯方社と子安の石】**  
 湯方社と子安の石は、衣掛の森の側に鎮座しています。湯方社の御祭神は、応神天皇ご誕生の際の助産師といわれています。子安の石は、安産祈願後、ここから石をひとつお借りし、「お産の鎮め」として自宅に持ち帰り奉安します。無事に自分の子どもを出産した際には、安産のお礼に新しい石に生まれた子どもの名前などを書き、持ち帰った石と一緒に納めるという信仰です。子安の石は年々増え続けており、宇美八幡宮へ参拝する人々が多いことを物語っています。



湯方社と子安の石

【産湯の水】

衣掛の森の側にある産湯の水は、応神天皇ご誕生の際、この湧き水を産湯に用いたという伝承が残っています。



産湯の水

二千年以上続く 鎮守の杜

宇美八幡宮は、境内全域がクスに囲まれたまさに鎮守の杜といえます。



歴史を感じるクスの木の内部

宇美八幡宮  
境内周辺図



至志免 県道 68 号線 至太宰府



井野公園 井野頓宮

(図提供：宇美八幡宮)

【聖母宮】

境内右奥側に鎮座しており、建物は、宇美町指定有形文化財に指定されています。御祭神は神功皇后で、福岡県指定有形民俗文化財の聖母宮神像が奉安されています。そして、左右には、聖母宮神像をお守りするかのよう、宇美町指定有形文化財の随神王像が奉安されています。聖母宮は、宇美八幡宮の中で最も古い建物であり、『黒田家譜』に、四代藩主黒田綱政が神功皇后御殿(聖母宮)について、造営を行い、宝永三年(七〇六年)四月に完成したことが記述されています。なお、聖母宮神像は、普段は見ることができず、二十五年に一度開帳されます。平成三十年(二〇一八年)にご開帳されており、次回のご開帳は令和二十五年(二〇四三年)の予定です。



聖母宮神像



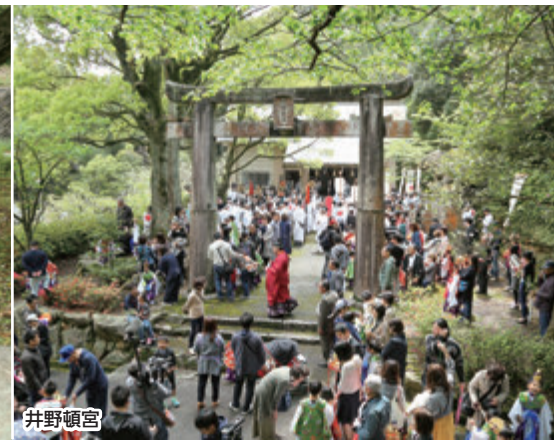
聖母宮

【井野頓宮と浮殿跡】

井野頓宮は、井野山の麓に鎮座しています。二年に一度執り行われる御神幸祭の御旅所となります。江戸時代の古文書には、御神幸祭の時に、浮殿という場所でお神輿を休憩させていたという記述が残っており、宇美商業高校付近には、浮殿跡の石碑が残っています。なお、井野頓宮がある井野山は、鎌倉時代には、御祈禱所と呼ばれた場所があり、蒙古襲来(元寇)の際の異国降伏祈願を行ったという記録が残っています。その際に、鎌倉幕府から宇美宮と唐山宮に対し、宇美荘地頭職が与えられていることから、古くから宇美八幡宮と関係があった場所と考えられます。



浮殿跡



井野頓宮



胞衣ヶ浦神社

【胞衣ヶ浦神社】

本殿の裏を流れる宇美川にかかる橋を渡り、階段を上った先に鎮座しています。応神天皇の胞衣を納めたと伝わる場所、今は神殿が建っています。この胞衣ヶ浦神殿の下にある鳥居付近からは、宇美八幡宮のクスの木がよく見えます。



稚児行列

宇美八幡宮では、年間を通して、様々な祭りが執り行われています。

【子安祭】  
子どもの健やかな成長を祈る春の大祭として、毎年四月中旬に執り行われます。

この中で、二年に一度、井野頓宮を御旅所として、宇美町指定民俗文化財の御神幸祭があります。

御神幸祭では、三基の神輿行列と稚児行列が、約一時間半かけて井野頓宮まで神幸します。

春の陽気に包まれ、雅楽の音色が響く中、御神幸行列は、優雅にゆつくりと進みます。



子安祭の御神幸

宇美八幡宮の祭り



受け継がれる宇美が誇る伝統芸能  
宇美神楽

福岡県指定無形民俗文化財の宇美神楽は、筑前岩戸神楽の系譜をもち、伝承によると、江戸時代頃から続くとされています。

宇美八幡宮の春の大祭「子安祭」と秋の大祭「放生会」などで奉納されます。また、福岡市東区奈多にある志式神社の大祭「早魚神事」でも、宇美神楽が奉納されています。

演目として、榊舞・和幣舞・五行舞・糸舞・臺目舞・天孫降臨・四剣舞・蛭児舞・手草舞・大蛇退治・天磐戸・磯良舞があります。

明治時代には、神職の神楽が禁じられたことにより、一時中断されましたが、明治三十四年（一九〇一年）、当時の青木輪之輔宮司が中心となり、地元熱心な有志らによって、宇美神楽座が結成され復興しました。これ以降、連綿と宇美神楽は伝承されています。



大茅の輪



茅の輪くぐり

【夏越祭】  
七月三十一日の夕刻から執り行われます。

この祭りでは、御神門に茅でつくられた大茅の輪が取り付けられ、茅の輪くぐりが行われます。茅の輪くぐりを行うと、厄が祓われ、健康に恵まれるといわれています。



放生会の賑わい

【放生会】

生きとし生けるすべてのものを慈しみ、自然の恵みに感謝するお祭り。秋の大祭であることから、五穀豊穡を祝う意味もあります。

宇美八幡宮境内古図には、現在の神楽殿裏あたりに「放生池」が描かれており、昔はこの池で、鳥や魚を放生する儀式が行われていたと推測されます。また、「八幡宮本紀」には、放生会の時に御神幸を行っていたと記述されています。

なお、昭和三十年代までは、宮前の通りで流鏝馬も行われていました。

現在は、参道に露店が並び、境内裏の広場では、宇美町商工会商まつりが盛大に行われ、多くの人々で賑わいをみせます。

特別  
史跡

# 大野城跡

## 四王寺山の歴史的重層性

日本書紀に記された日本最古の古代山城「大野城跡」。  
今から約1360年前に築城されたこの城は、あまりにも広大であるため、未だ謎多き山城といえる。

大野城跡がある四王寺山は、やがて、城としての機能が薄れていく中、四天王寺建立、経塚造営、三十三体石仏建立と、次第に「祈りの山」へ姿を変えていった。

そして、今も続く毘沙門詣りという伝統行事。

四王寺山が積み上げてきた長い歴史。

古代山城、祈りと信仰、そして今も受け継がれる伝統行事。

大野城築城から始まる、四王寺山の歴史的重層性について、ひも解く。

### 日本最古の古代山城

大野城跡は、宇美町の南側にある四王寺山脈(最高峰の大城山が標高410メートル)に築城された古代山城です。「日本書紀」の天智天皇四年(六六五年)八月の記録に、「大野及び椽、二城を築かすむ」という記述があることから、文献上での日本最古の古代山城であると考えられています。城跡は、宇美町、太宰府市、大野城市にまたがって所在しており、全長約180メートルにも及ぶ百間石垣や、各所に存在する礎石建物跡群など、城内の約80パーセントが宇美町内に所在します。

この城跡は、古代山城であるため、近世城郭とは異なり、天守閣などはありません。四王寺山の尾根に沿うようにして城壁となる土塁(一部は石垣)で山全体を取り囲んだ広大な山城であり、その城壁の総延長は約8キロメートルと

### なぜ城が築城されたのか

いわれています。左下の写真のように、この土塁線上を歩きながら、城跡を散策することができます。

当時、朝鮮半島では百済・新羅・高句麗の三国による領土争いが激化していました。そのような中、齊明天皇六年(六六〇年)に、新羅と唐(当時、中国にあった国)の軍事同盟が成立し、唐・新羅連合軍が百済を攻め滅ぼしました。

百済滅亡後、すぐに復興運動が起こり、百済の遺臣たちは、倭国(現在の日本)に滞在していた百済の王子である豊璋を王に迎え、唐・新羅連合軍へ対抗します。倭国は、百済の遺臣たちに呼応し、百済復興軍支援を行い、唐・新羅と対立することになっていきます。

こうして、天智天皇二年(六六三年)

八月、「唐・新羅連合軍」対「百済復興軍・倭国軍」との最終決戦が起こります。これが「白村江の戦い」です。

その結果、唐軍が倭国軍の船を左右から攻撃して打ち破り、倭国軍は敗北しました。

敗戦の翌年から、倭国は防衛策の強化を始めます。天智天皇三年(六六四年)に、朝鮮半島に通じる対馬・壱岐と北部九州の沿岸部を中心に、防人と烽を配置し、同年に水城を築造しました。

こうして、翌年に、大野城と基肄城が築城されたのです。

築城には、百済滅亡後、日本へ亡命してきた百済の高級官僚である憶礼福留と四比福夫という人物の技術指導があったことがわかっています。

大野城は、大宰府都城外郭防衛ラインとして、水城や基肄城とともに構築されたと考えられます。



大野城跡からの展望



大野城跡

水城跡

原田小学校

宇美南中学校

宇美中学校

大野城跡空撮



百間石垣



大野城跡(尾花地区)からの景色



城の構造

【城壁と石垣】

大野城跡の城壁ラインは、主に土塁で構築されています。質の違う土を数センチメートルごとに積んで叩きしめるという「版築工法」で構築しており、土を幾層にも叩き締めることで、コンクリートに近い強固な盛土としています。土塁の高さは約5〜7メートル、傾斜角は約70度、その城壁の総延長は約8キロメートルにも及んでおり、とても壮大なスケールの城ということがわかります。

城壁ラインの一部では、石垣が構築されており、百間石垣・北石垣・小石垣・屯水石垣・水ノ手石垣・大石垣・原石垣の7箇所が確認されています。石垣には、内部まですべて石で構築した「総石垣」と、内部は土塁でその表面を保護するように石垣を構築した「貼石垣」という二つのタイプがみられます。

【城門跡】

城門跡は、宇美口・太宰府口・坂本口・水城口・原口・北石垣・小石垣・観世音寺口・クログガネ岩の9箇所が確認されています。太宰府市側に位置する太宰府口城門跡は、城内最大規模の城門跡であり、鬼瓦や鴻臚館式系軒丸瓦が出

【建物跡(礎石群)】

城内では、建物跡が約70棟確認されています。その分布は宇美町内に偏しており、増長天・八ツ波・村上・主城原・猫坂・尾花・御殿場・広目天地区の8つに分けられています。

発掘調査で確認された建物跡は、大きくは掘立柱建物跡と礎石建物跡に分けられ、三間×五間のサイズのもものが32棟と最も多いタイプとなっています。掘立柱建物跡では、建物の外壁部分に柱を立てる「側柱構造」と「総柱構造」の二タイプが確認されており、礎石建物跡では、すべて総柱構造が確認されています。ほとんどの建物には、稲を貯蔵していたと考えられており、尾花地区礎石建物跡群(通称・焼米ヶ原)から発見された炭化米は、これを裏付けるものといえます。

建物について復元すると、屋根を含めた全体の高さが約8メートルで、3階建てビルと肩を並べるほどの大きさの高床式倉庫であったと推測されています。主城原地区の発掘調査では、三間×七間以上の大規模な掘立柱建物跡が確認されており、稲を蓄える倉庫群のほかに、城の中心部分には、役所的な機能を持つ建物が存在したとも推測されています。



大野城跡建物跡(稲倉) 外観の復元イメージ図 (図提供: 福岡県教育庁文化財保護課)



炭化米



懸門構造の城門復元イメージ図

土していることから、総瓦葺の城門で、城の正門としての機能を持っていたとされています。一方で、北石垣城門跡では、発掘調査で城門前面に約1.5メートルの段差が確認されており、普段はこの段差に梯子などを用いて出入りしますが、有事にはこれを取り外し敵に備える「懸門構造」と呼ばれる防衛性の高い城門であったと考えられています。

なお、百間石垣付近からは、城門の礎石が発見されており、本来は百間石垣付近には、城門(宇美口城門)があったと推測されています。これは、太宰府口城門跡と同様の形態で、宇美町側からの正門であったと推測されています。現在、この城門礎石は、宇美町立歴史民俗資料館と四王寺県民の森センターに展示されています。

出土品



大野城跡建物跡(稲倉) 内部の復元イメージ図 (図提供: 福岡県教育庁文化財保護課)

大野城跡出土品で最も多いものは、建物の屋根に葺かれた瓦類です。主に、城門跡や建物跡から、まとまった量が見つかっています。

珍しい資料として、文様塼(もんやせん)があります。これは、建物の床面を装飾するために使用されたタイルのようなもので、近



鏡ヶ池

増長天地区礎石建物跡群

隣では、大宰府政庁跡・学校院跡・観世音寺などの限られた場所で見つかるだけではありません。また、「館」という文字が書かれた墨書土器も発見されています。「館」は館の異体字ですが、古代・中世の東北地方では防衛施設のある城館を館と呼んでいました。軍事施設と同じ意味の漢字で使われていたのかもしれない。

これらの資料は、大野城跡には稲倉だけではなく、役所的機能をもつ建物があったことを裏付けるものといえます。

大野城跡で発見された文様塼や「館」銘墨書土器は、宇美町立歴史民俗資料館に展示しています。

涸れない謎の池 鏡ヶ池

増長天地区礎石建物跡群の横に、鏡ヶ池があります。この池は、どんなに日照りが続いても涸れることがないと伝えられており、かつてはここで雨乞い行事をしていたといわれています。涸れない理由はまだ解明されていません。

### 四天王寺の建立

大野城は築城されましたが、攻め込まれることはありませんでした。ところが、大野城が築城されたから約一〇〇年後の奈良時代に入ると、大野城築城時に敵対関係だった新羅が、日本に対して呪詛(呪い)を行って災いをもたらそうとしているという話が伝わってきたのです。そこで、これに対抗するため、宝亀五年(七七四年)光仁天皇の勅命により、四天王の法力によって災いを払い除けるため、城内の高頭浄地(高く清らかな地)を選び、ここに四天王像を安置した。四天王寺(四王院)が建てられました。現在、四王寺山と呼ばれているのは、奈良時代に建てられたこのお寺に由来すると考えられています。



四王銘瓦

### 四王寺三十三体石仏

現在、四王寺山には、大野城跡の土塁線を中心に、三十三体の石仏群が点在しています。十二番札所の岩壁には、この建立に関する銘文が刻まれており、江戸時代後期に博多を中心とした福岡平野において、災害や疫病が続発したことに對し、これらの災いを収めるため、寛政十二年(一八〇〇年)に、太宰府天満宮の社僧で、水瓶山での祈禱を継承していた華台坊と、博多横町の宮崎金平らが発起人となり、博多・宇美・太宰府の人々が力を合わせ、西国三十三観音霊場各々の土を基壇に敷き、三十三体の石仏像を造像し建立したことがわかっています。

なお、大正八年(一九一九年)に筑前参宮鉄道が開通したことに伴い、かつては、四王寺三十三体石仏をめぐる「千人詣り」という行事が行われていました。このように、奈良時代から平安時代にかけて、大野城という城としての機能から、祈りと信仰の山として、変化していったのです。



三十三体石仏 13番札所



三十三体石仏 12番札所

### 経塚の造営

城内の高く清らかな地に建立したとあることから、四天王寺の場所は、現在、毘沙門堂がある大城山付近と推測されています。四王銘瓦も発見されていますが、明確な遺構が確認されていないことから、その全容は未だ謎に包まれています。平安時代後期頃になると、日本に末法思想というものが広まります。これは、世が乱れ、不安定な世界になるといわれるために、当時の人々は、「経塚」を造営していくようになりました。経塚とは、お経が入った青銅などで作られた「経筒」を埋めたもので、仏教の教えを未来まで守り伝えるために造られたとされています。九州でも多くの経塚が造られ、福岡県下では、四王寺山をはじめ、宝満山、英彦山、求菩提山などで経塚が確認されています。

四王寺山の経塚群は、昭和二年(一九二七年)、福岡県の囑託であった島田寅次郎が、宇美町役場職員や四王寺住民

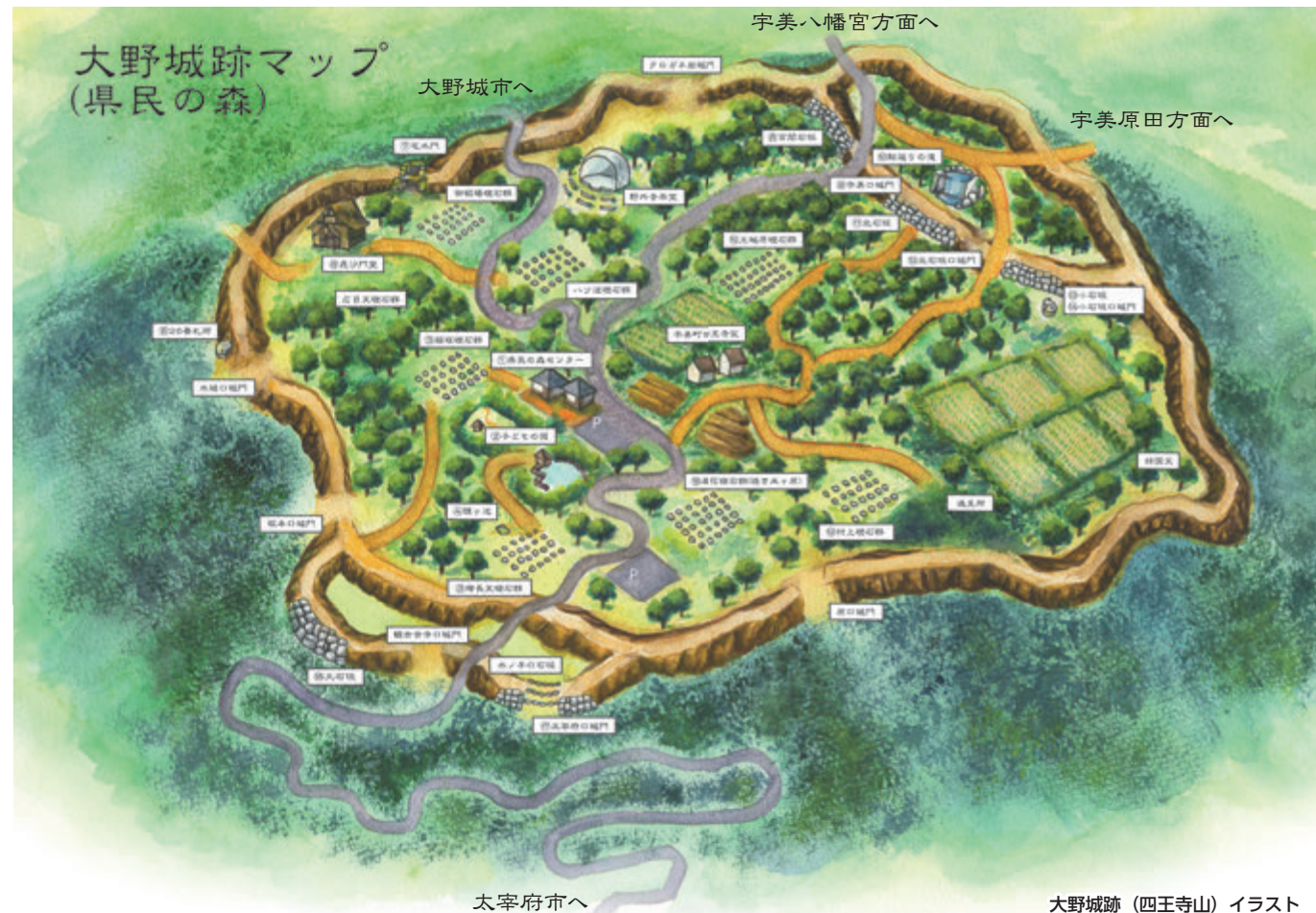
と一緒に大野城跡の土塁線の調査を行っていた際に、初めて発見したものです。その後、昭和七年(一九三二年)にも発見され、現在、この出土品は、国重要文化財に指定されています。

四王寺山から発見された経筒のうち、二点は、元永元年(一一一八年)銘と元永二年(一一一九年)銘が刻まれており、平安時代後期にかけて、経塚が造られたことがわかります。

この他、四王寺山からは、独鈷杵が発見されています。宇美町と九州歴史資料館が共同でこの独鈷杵の調査(科学分析等)を行った結果、平安時代後期頃のものとして推定されています。この独鈷杵は、宇美町指定有形文化財に指定されており、宇美町立歴史民俗資料館に展示しています。

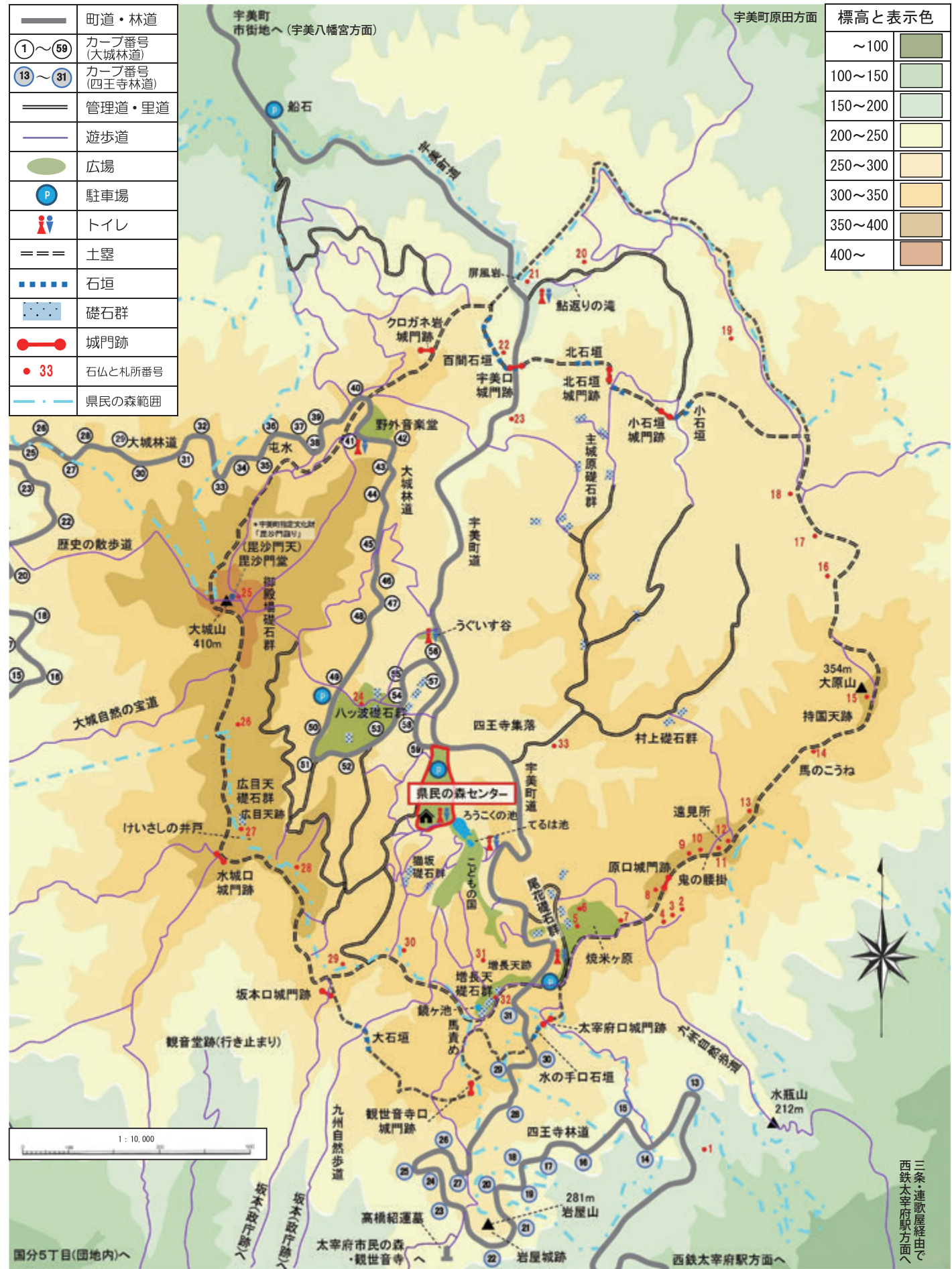


筑前国四王寺山経塚群出土品

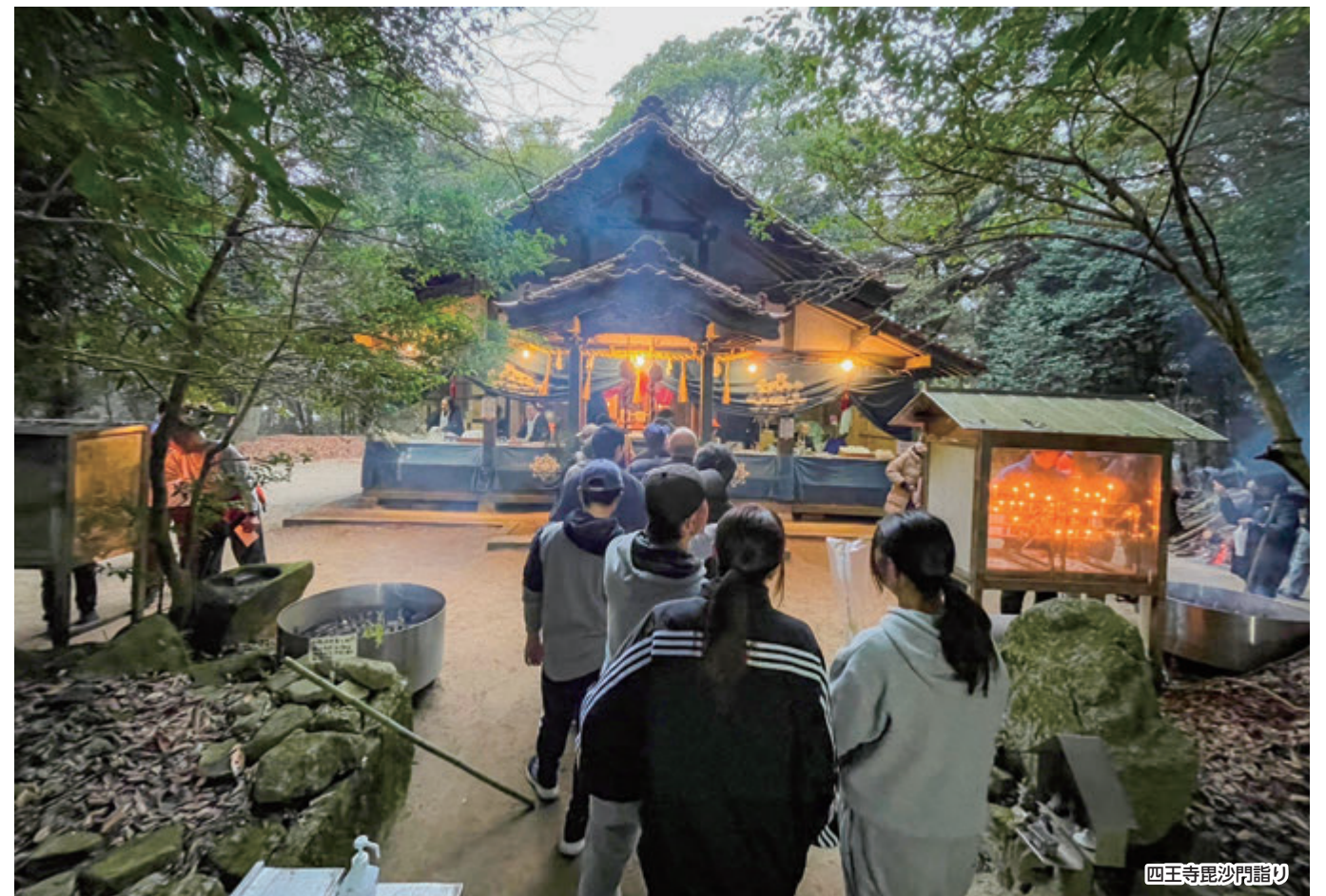


大野城跡(四王寺山)イラスト

太宰府市へ



大野城跡（四王寺山）案内図（図提供：福岡県立四王寺県民の森協議会）



四王寺毘沙門詣り



毘沙門堂前の鳥居

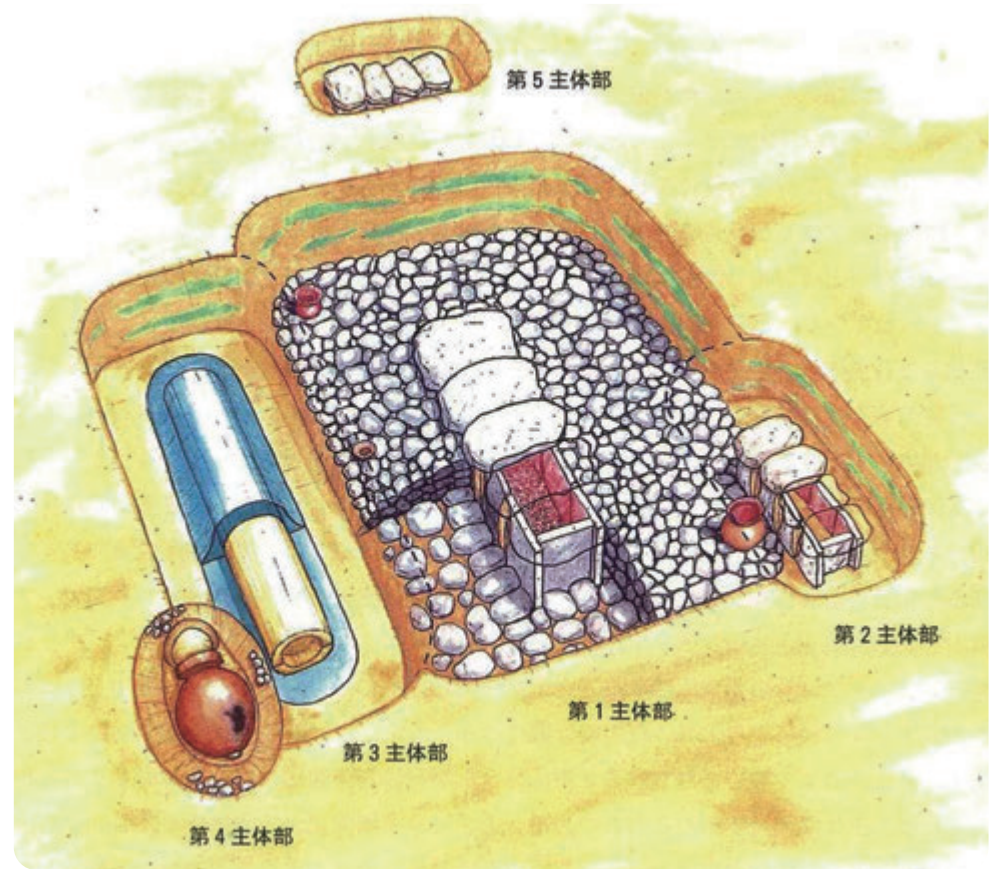
受け継がれる信仰と宇美町誇りの山

四王寺山脈の最高峰である大城山頂上付近に、普段は静寂に包まれたお堂があります。お堂の名前は、毘沙門堂。このお堂では、一月三日に「四王寺毘沙門詣り」(宇美町指定民俗文化財)が行われます。早朝から、宇美町側だけでなく太宰府市側や大野城市側からもたくさんの人々が毘沙門堂を目指して登ってきます。お堂の扉が開かれると、

そこには大きな賽銭台が置かれています。この中からお金を借りて帰り、翌年は倍にして返し、また新たにお賽銭を借りて帰るということを繰り返すことで、一年間お金に困らず幸運に恵まれるといわれている伝統行事です。なお、毘沙門堂前の鳥居は、宇美町にある小林酒造本店(通称「萬代」)の三代目当主である小林虎太が、弘化四年(一八四七年)に建てたものです。

宇美町誇りの山

現在、大野城跡は「日本一〇名城」に登録されているほか、大宰府史跡に関する遺跡であることから、宇美町では、関連自治体と共に、この大野城跡の活用事業に取り組んでいます。また、四王寺山はワンヘルスの森として、紅葉など自然を楽しむこともできます。最近では、紅葉にあわせて様々なイベントも開催されています。



埋葬施設推定復元図



光正寺古墳

国指定  
史跡

# 光正寺古墳

邪馬台国の国々  
「不弥国」の候補地 宇美

## 糟屋郡内最大で最古級の古墳

光正寺古墳は、宇美町北西部(志免町との町境)にあり、標高約45メートルの丘陵上に築造されています。平成八年(一九九六年)から平成十年にかけて、保存整備目的の発掘調査が行っており、現在は古墳公園となっています。

発掘調査の結果、古墳の大きさは、全長約54メートル、後円部直径約33メートル、前方部長約21メートルで、葺石で覆われた古墳であったことがわかりました。

埋葬施設は、後円部に造られており、箱式石棺が三基(第一・二・五主体部)、割竹形木棺が一基(第三主体部)、土器棺が一基(第四主体部)の計5箇所確認されています。

なかでも、一番大きい第一主体部は、大形の箱式石棺で、石棺の周りは川原石

邪馬台国までの道のりを記した歴史書『魏志倭人伝』。この中に登場する「不弥国」はどこにあったのか。「不弥国」＝糟屋地域説の力ギを握る古墳が、ここ宇美町に。

が敷き詰められていました。また、石棺内部はベンガラで赤く塗られており、副葬品として、水銀朱が付着した土師器も出土しています。

残念ながら盗掘されていたため、わずかな副葬品しか残っていませんでしたが、翡翠製勾玉、碧玉製管玉、鉄刀片、鉄剣片、鉄刀子などが出土しています。

出土土器の研究分析などから、古墳時代初頭の三世紀後半頃に築造された糟屋郡内で最大かつ最古級の前方後円墳であることがわかりました。

## 被葬者は誰なのか

光正寺古墳はどのような人物が埋葬されていたのでしょうか。

卑弥呼が治めた国「邪馬台国」までの道のりを記した中国の歴史書『魏志倭人伝』には、様々な国々が登場します。そ

の二つに「不弥国」という国があります。

「不弥国」は奴国の次に登場し、その記述は、「東行至不彌國百里官曰多模副日卑奴母離有千餘家(東行して不弥国に至るには百里 官は多模といひ 副官は卑奴母離といひ 千餘家ある)」とあるのみで、その所在地は未だ説明されておらず、謎に包まれたままです。

現在候補地として、「穂波・飯塚地域(嘉穂盆地)説」と、宇美を中心とした福岡市東区の一部を含む「糟屋地域説」という二つの説が有力な説となっています。

光正寺古墳は、その築造年代観から、糟屋平野を治めていた不弥国の首長層の墓と推測されており、不弥国＝宇美を中心とした福岡市東区の一部を含む糟屋地域説を立証する重要な古墳といえます。

なお、この「不弥」が「うみ」となり、宇美町の名前の由来となったという説もあります。



出土した勾玉と管玉

水銀朱が付着した土師器

宇美川と井野川に挟まれた平野部を一望できる丘陵上に古墳はある



# 宇美の城跡

## 宇美を守った在地武士の城 唐山城跡



唐山城跡 (井野山) からの展望



頂上の看板

## 宇美の城跡

しかし、江戸時代の記録では、『豊前覚書』とは少し異なる記述がみられます。『筑前国統風土記』には、東城は安河内氏の居城、西城は神武氏の居城で、両人とも大友氏に属しており、神武は宇美の神職であると記述されています。また『筑前国統風土記拾遺』でも、宇美宮神職の神武氏と安河内氏が在城している」と記述されています。

らの居城であったと記述されています。また、『宇美八幡宮大宮司神武氏由緒書』には、宇美八幡宮大宮司の神武秀宗が天正二年（一五七四年）に築城し、普段は安河内備前と桜木主水の兩人を物頭とし、従者数百人が詰めていたことが記述されています。福岡市博物館所蔵青柳種信関係資料『山崎文書』所収「神武氏系図」には、神武秀良という人物がみられ、この史料では、秀良が唐山に城を築いたことが記述されています。この秀良は、秀宗の先代で兄にあ

### 唐山城跡とは

唐山城跡は、井野山（標高236メートル）に東城跡、そこから約700メートル離れた大野城市内の標高約199メートルの頂上部付近に、西城跡があります。

これまで研究では、東城跡は、主郭と考えられる山頂部を城郭化しているものの、自然地形を利用した小さな城であったと想定されていました。しかし、近年行われた縄張り再調査の結果、頂上北側の斜面や登山道の途中で、畝状（うねりじょう）の防衛施設が確認されました。これが、築城当初に造られたものか、それとも防御性を高めるため改修を加えたものか、どちらかは不明ですが、いずれにしても、城は頂上だけではなく、広範囲に広がっていたと考えられます。

宇美町内に残る3箇所の中世城跡。井野山にある唐山城跡、三郡山系の頭巾山にある頭巾山城跡、砥石山にある鬼杉城跡。その一つ、唐山城跡は複数の古文書に登場する城跡。宇美をとりまく戦国時代の様相に迫る。

### 城主は誰なのか

近年、古文書調査も進み、色々なことが分かってきました。唐山城は、豊後国を中心に、当時、北部九州を支配していた戦国大名である大友氏方の記録『豊前覚書』では「賀良山城」、大友氏関係文書では「嘉良山城」として登場します。

この中では、永禄十一年（一五六八年）に、管崎宮座主麟清（大友義鎮の従兄弟）が岩屋城の高橋鑑種の軍勢に備えるため、一五〇〇人の兵を連れ、賀良山に在城したとあります。その後、天正七年（一五七九年）には、管崎宮座主方清（麟清の養子）が、東城に在城したことが記されています。このように『豊前覚書』では、管崎宮座主の城であったといえます。

### 唐山城の役割

では、唐山城はどのような役割をもった城だったのでしょうか。

戦国時代の糟屋地域は、大分の戦国大名である大友氏、太宰府の高橋氏、穂波郡の秋月氏など、様々な勢力が対立していました。

このような中で、立花山城と岩屋城を結ぶ要所にある点、さらに、福岡平野も一望できる井野山にある点などから、立地的に唐山城は重要な城として位置づけられていたと考えられます。

重要な城として位置づけられていたもう一つの背景として、交通の要衝であったことも注目すべき点といえます。唐山東城（井野山）は、大野城市方面と宇美を結ぶ幹線的な交通路である唐山

峠が目下にあります。戦国時代の山城は、重要な道（峠）を抑えることもその役割の一つであったと考えられます。よって、古来より糟屋地域と福岡地域を結ぶ重要な道（峠）のすぐ近くに、唐山城は築城されたといえます。



青柳種信関係資料『山崎文書』にある唐山城跡の記録（福岡市博物館所蔵）

宇美町にあった

# 二つの鉄道路線

博多湾鉄道（現 JR 香椎線）と筑前参宮鉄道（旧国鉄勝田線）

近代の宇美町を語るうえで欠かせないのが、鉄道の歴史。現在も走り続ける「香椎線」。そしてもう一つは廃線となった「勝田線」。幻となった鉄道計画も交え、当時の人々が鉄道にかけた「情熱」に思いを馳せよう。



博多湾鉄道と宇美川に架かる鉄橋（昭和10年代後半頃）

## 博多湾鉄道

博多湾鉄道は、明治二十九年（一八九六年）二月に、糟屋の石炭を西戸崎へ輸送することを目的とし、計画が出願されました。

明治三十三年に正式に創業し、明治三十七年一月、西戸崎から須恵が開業。翌三十八年十二月、宇美まで全線開通しました。宇美駅もこの時、開設しています。

## 筑前参宮鉄道

筑前参宮鉄道は、大正三年（一九一四年）五月に特許を得た宇美軌道として始まり、宇美参宮軽便鉄道、さらに筑前参宮鉄道への改称を経て、大正五年に創業しました。石炭輸送も目的としていましたが、社名に「参宮」と名乗るように、宇美八幡宮への参拝客輸送など、旅客輸

送も目的としていました。

大正七年九月、まず、宇美から筑前勝田間が開業し、翌八年五月には、吉塚から新宇美（後に上宇美へ改称）までの区間が完成。そして先に完成していた筑前勝田までの線路ともつながり、全線が開通しました。

全通時、宇美町内には新宇美駅と筑前勝田駅の二駅のみが設置されていましたが、全通の同年には、吉塚方面に下宇美駅（後に宇美八幡駅へ改称）、昭和七年（一九三二年）には、筑前勝田方面に大谷駅も開設されました。

なお、小林酒造本店（通称「萬代」）の社長である六代目小林作五郎も筑前参宮鉄道に出資しており、会社創立時から取締役、昭和三年には社長となり、同社ギ一源の転換の中で、昭和三十年代には、国鉄の志免炭鉱をはじめ沿線の炭鉱は全て閉山し、石炭輸送量は、大きく減少していききました。

こうした中、昭和五十六年九月、勝田線は「国鉄再建法」に基づき、廃止路線に指定されました。福岡県では同時に、甘木線、香月線、添田線、室木線、矢部線も指定されています。これに対し、地元では存続運動が行われましたが実らず、勝田線の廃止が決定されました。

昭和六十年三月三十一日、勝田線に最後の列車が運行され、筑前参宮鉄道以来の歴史に幕を閉じました。廃止後、線路跡は多くが緑道として整備されました。下宇美駅跡にはホーム跡が残っており、鉄道が走っていた名残を、現在も伝えています。

## 宇美町にあった二つの鉄道路線



大福岡市近郊の名山 四王寺山



勝田駅駅標

の経営に尽力しています。

## 幻となった宇美から太宰府への鉄道延長

実は、大正年間に、筑前参宮鉄道は、宇美を縦断して太宰府方面へ至る鉄道を三回も構想していましたが、実現することはありませんでした。他にも、当時二日市から太宰府までの軌道を経営していた太宰府軌道（現西鉄太宰府線）も、宇美への延伸を計画し、大正十一年八月に申請しています。この申請計画は、現在の太宰府駅から北上して四王寺山の東側を通過し、筑前勝田駅付近まで至るもので、さらに延伸して宇美町の市街地まで走る構想もありました。しかし、許可は下りたものの、建設はできず、昭和六年に失効しています。

## 観光客誘致と鉄道

昭和五年、筑前参宮鉄道は、「大福岡市近郊の名山 四王寺山」と題したチラ

## 西日本鉄道への統合

昭和十七年九月、当時、福岡県内を走っていた他の鉄道三社とともに、博多湾鉄道と筑前参宮鉄道は合併し、西日本鉄道（西鉄）が誕生しました。さらに太平洋戦争が開戦すると、国有化され、昭和十九年五月、西鉄糟屋線（旧博多湾鉄道）と宇美線（旧筑前参宮鉄道）は、国有鉄道の香椎線、勝田線となりました。

戦後、昭和二十四年六月には、運輸省から国有鉄道の現業部門を公共企業体として切り離し、新たに日本国有鉄道（国鉄）が発足。香椎線と勝田線も、この国鉄の路線となりました。

## 勝田線廃線の道へ

戦後、石炭から石油への主要エネルギー



最終日の勝田線列車につけられたヘッドマーク



極楽寺観音様のオヨドでは、提灯や旗が取り付けられる



宮崎宮お潮井



「宮崎八幡宮奉遷の地」石碑



極楽寺跡

# 意外と知られていない 宇美の歴史 ふしぎ発見！

宮崎宮と極楽寺跡

宇美町の奥深くにひっそりと佇む極楽寺跡。地域の人々に守り受け継がれてきたこの場所には、意外と知られていない歴史がある。それは、福岡市東区に鎮座する宮崎宮との歴史的繋がり。歴史がつなぐ時を超えた交流がここに存在する。

## 極楽寺跡とは

極楽寺跡は、宇美町障子岳の極楽寺地区にあります。今でも、極楽寺の方々によって大切に守り続けられている場所です。

この極楽寺跡入口には「宮崎八幡宮奉遷の地」という石碑が建っています。宮崎宮と極楽寺跡の関係性はいつたい何でしょうか。

## 宮崎宮御神体が遷された極楽寺

鎌倉時代、モンゴル帝国(元朝)が九州へ襲来します。文永十一年(一二七四年)の文永の役と、弘安四年(一二八二年)の弘安の役、いわゆる蒙古襲来(元寇)です。文永の役では、彦岐・対馬を襲った元軍は、博多湾から博多へ上陸し、これを迎え撃つ鎌倉幕府軍は、宮崎宮に集結し

あったので、神輿を持ち出している時間などありませんでした。お供には、わずかな神官たち。

宇美宮へ到着した神官たちでしたが、既に宇美宮には人の気配がありません。また、戸締まりがなされていて、立ち入る術がありません。宇美宮を後にした神官たちが次に向かったのは極楽寺でした。ようやくここで無事、御神体を安置させます。その時、博多宮崎は既に猛火に包まれていたのです。

## 歴史がつなぐ交流

「宮崎八幡宮奉遷の地」の石碑除幕式を取材した昭和五十年の新聞記事には、当時の宮崎宮宮司が御神体をお守りいただいたことに感銘を受け、極楽寺の方々の協力のもと、元寇七〇〇年を記念し、この石碑を建立したことが掲載されています。

この石碑建立以降、七月の極楽寺観音様のオヨドと、九月の宮崎宮放生会に、それぞれが参拝し、親睦を深めるといふ交流が、今でも続けられています。

歴史がつなぐ時を超えたこの交流は、宇美町の歴史上でも重要なものといえるでしょう。



極楽寺バス停付近にある石碑

ました。激しい戦闘の末、幕府軍は形勢を立て直すべく、水城を目指して落ちていきました。このような中、宮崎宮の被害は大きく、神官たちが御神体を避難させなければならぬほど緊迫した状況に陥りました。

鎌倉時代につくられたとされる古文書『八幡愚童訓』には、この様子が記述されています。(現代語要約)

宮崎宮では神官たちが守りを固めていました。しかし、頼みとする軍兵が水城を目指して落ちていってしまいます。神官たちは、御神体を唐櫃に入れて、泣く泣く宮崎宮を後にします。火急のことで



宮崎宮放生会 極楽寺の人々を歓迎する舞の奉納



極楽寺観音様のオヨド 宮崎宮神職が参拝



昭和30年代

宇美八幡宮放生会  
今と変わらない放生会の賑わいがわかる写真です。  
昔、宇美八幡宮放生会では、八幡宮前の通りで、流鏑馬(馬からの的に向かって矢を射る競技)が行われていました。  
消防団が警備する中、たくさん見物客が写っており、今にも当時の歓声が聞こえてきそうな写真です。



現在



昭和30年代

宇美八幡宮前の通り  
県道68号の宇美八幡宮前の通り。懐かしい車が走り、たくさんのお店が立ち並んでいます。現在でも、少しその面影を残しています。



現在



昭和40年頃

香椎線宇美駅前  
奥に写っているのが、香椎線宇美駅。手前には勝田線の踏切が写っています(左は下宇美駅方面、右は勝田駅方面)。この写真には写っていませんが、香椎線宇美駅の手前(現在のマルト醤油付近)に勝田線の宇美駅がありました。



現在



昭和60年

国鉄勝田線の下宇美駅  
かつて宇美町には、筑前参宮鉄道(後の国鉄勝田線)が走っていました。下宇美駅は宇美八幡宮とも呼ばれた時期もあり、宇美八幡宮へ参拝するために利用した乗客もいたようです。現在、線路跡の多くは緑道となり、下宇美駅跡は下宇美緑道公園として、駅のホームが残っています。

### 宇美八幡宮放生会

### 宇美八幡宮前の通り

### 香椎線宇美駅前

### 国鉄勝田線の下宇美駅



明治33年頃



現在



昭和3年6月



現在



昭和16年3月

上宇美商店街にあった映画館「千日座」  
上宇美商店街には、「千日座」という映画館がありました。また、宇美八幡宮の裏(現在の宇美八幡宮保育園)には「子安座」という劇場もあり、上宇美商店街から宇美八幡宮までの一帯が大変賑わっていたことが想像されます。

### 宇美橋にあった大鳥居

明治時代、県道68号の宇美橋(小林酒造本店側)には、大鳥居が建っていました。この大鳥居は、道路拡幅などの理由により、大正時代に宇美小学校裏門付近へ移築された後、昭和42年に井野頓宮へ移築されています。

### 大嘗祭御用藁耕作地の田植式

昭和天皇即位後の大嘗祭に際し、宇美町障子岳が御用藁の耕作地に指定されました。この写真は、耕作者に選定された藤木孫兵衛を中心に、宇美町青年団障子岳支部の人々が田植えを行っている様子を撮影した貴重な写真です。今は、御用藁耕作地の石碑が建っており、当時の様子を語り継いでいます。

### 上宇美商店街にあった映画館「千日座」

# 町の懐かしい風景

古写真から見る町の移り変わり

今は色あせた古写真。実はこれ、町の移りわりを知る上で、貴重な宝物。変わってしまった街並みがあれば、昔と変わらない風景もある。古写真をみながら時間旅行へ出かけよう。





民俗展示室



勝田線廃線記念色紙



「館」銘墨書土器



考古展示室

日本遺産「古代日本の『西の都』」  
宇美町の大野城跡

宇美町の歴史を学ぶならココ！

# 宇美町立歴史民俗資料館

この館には、宇美町の歴史がたくさん詰まっている。  
歴史を身近に感じ、思いを馳せ、郷土愛を育む場所として。

## 宇美町の歴史を学ぶ

宇美町立歴史民俗資料館は、町内に  
ある貴重な文化財の収集・保存・展示公  
開を行い、郷土の歴史や文化財に対する  
理解を深めるための施設として、昭和五  
十五年（一九八〇年）に開館しました。開  
館当初から、町内外をはじめ、県外から  
も多くの方々が来館されています。

一階の民俗展示室では、町内から収集  
した農具・家具などの民俗資料や、勝田  
線で使用されていた鉄道資料などを展  
示しており、昔の様子について学ぶ場所  
として、主に、町内外からの小学校児童  
の見学も多く利用されています。

一階の考古展示室では、町内の遺跡発  
掘調査で出土した資料を展示しており、  
なかでも、観音浦古墳群で出土した日  
本唯一の蜻蛉形鞘金具、大野城跡出土  
の「館」銘墨書土器や文様埴、光正寺古

墳出土の勾玉や土器など、ここでしか見  
ることができない資料を展示していま  
す。

団体見学にも対応しており、学芸員が  
適宜説明を行っています（要事前申込）。  
また、資料館は、展示だけでなく、発掘  
調査出土資料の実測や復元作業などの  
埋蔵文化財業務も行っています。

不定期ですが、勾玉づくり・ミニチュア  
はにわづくりなど、歴史体験講座も開催  
しています。



## 資料館で販売中!

ここでしか購入することができないグッズです。  
通信販売などは行いません。また、購入数を制限する場合も  
ありますので、ご了承ください。

### ○ 御城印「大野城」

それぞれ書体が異なる白色・若草色・びわ色の3種類が  
あります。  
揮毫は、福岡県立宇美商業高等学校書道部によるもの  
です。

各1枚300円(税込)



### ○ 日本城郭協会監修 日本100名城 城カード「大野城」(宇美町版)

大野城跡が所在する宇美町・太宰府市・大野城市で  
カードを販売しています。それぞれに違うデザインで  
す。宇美町版は、町内にある城内最大の石垣「百間石  
垣」がデザインされたカードになります。

1枚350円(税込)



年表表 (和暦, 西暦, 月) with entries from 約二万五〇〇〇年前 to 神龜五年.

宇美で石器を用いた狩猟活動が行われ始める。正籠遺跡付近と宇美公園付近の神領・浦尻遺跡で石器が発見される。宇美で縄文人が活動を始め。宇美小学校付近の上古遺跡で縄文土器と矢じりが出土。宇美川と井野川流域で弥生時代の集落が形成される。井野小学校付近の川原田・供田遺跡群、宇美小学校付近の上古遺跡、宇美商業高校付近の表田・世利口遺跡で弥生時代の遺跡が発見される。倭の奴国王が後漢に使いを送り、金印を授かる。邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使節を送り「親魏倭王」の称号と金印を与えられる。光正寺古墳が築造される。神領・浦尻古墳群(宇美公園付近)が築造される。天園遺跡(井野)で滑石製玉類が製作される。筑紫君磐井の乱が起る。筑紫古墳群(貴船)が築造される。観音浦遺跡・若長浦須恵器窯跡群(ひばりが丘)で須恵器が生産される。観音浦古墳群(ひばりが丘)の築造が始まる。湯湧古墳群(四王寺坂)が築造される。ウソフキ古墳群(井野)が築造される。宇美中学校遺跡で滑石製玉類が製作される。稲金・山ノ上遺跡(貴船)で滑石製玉類が製作される。宇美八幡宮が創建される(宇美八幡宮縁起「益軒全集 巻五」)。※承応元年の留守良勝傳子孫書では、敏達天皇二年、明治三十年に宇美八幡宮が官庁へ提出した「宇美宮ヲ官幣社ニ列セラシ度願書」には敏達天皇七年とある。唐・新羅連合軍により百済が滅亡する。白村江の戦いで、倭国が唐・新羅連合軍に敗北する。対馬島・志岐島・筑紫国等に防人・烽を配備し、筑紫国に水城を築く。筑紫国に大野城・基肄城を築く(「日本書紀」)。大宰府に大野・基肄・鞠智二城の統治を命じる。大宝律令制定、大宰府の諸制が整備される。都を奈良に移す(平城京へ遷都)。筑前守山上憶良が大野山を歌に詠む。塔ノ尾遺跡(筒子岳)で火葬墓が造られる。

年表表 (和暦, 西暦, 月) with entries from 宝龜五年 to 永祿三年.

大野城内に四天王寺(四王院)を建立する。都を京都に移す(平安京へ遷都)。大野山寺(四天王寺)の四天王像等を筑前金光明寺(筑前国分寺)に移す。大宰府、疾病が甚だしたため、四天王寺(四王院)復置を申請し許可される。大宰府が関係諸国司に対し、筑前大分宮、宇美宮・豊前香春社・肥前千栗八幡宮の雑務執行を石清水別当清成にさせるように命じる(「大日本古文書」石清水文書之五「宮寺縁事抄」大宰府・太宰府・大満宮史料「巻五」)。四王院山で経塚が造られる(僧教尊、法華経を四王院山に埋納する)。村上経塚出土経筒銘。宇美八幡宮の六つの荘園(宇美・長野・田富・吉原・殖木(植木)・白水)が石清水校成清から娘の紀氏女へ譲与される。源頼朝が征夷大将軍に任命される。石清水別当道清が、宇美八幡宮の槐の木を取り寄せて小薬師像を作り安産祈願をした修明門院が無事皇子を出産する。石清水別当宗清の妻が懐妊した際に、安産祈願のために宇美宮の槐を用いて薬師像を作る。宇美の役。宮崎宮の御神体が戦火から逃れるため、宇美極楽寺に遷座される(「八幡患童訓」)。幕府が異国降伏のために、所領を宇美宮・唐山宮に寄進する。弘安の役。神武某が、鎌倉幕府から宇美庄地頭職を与えられる。鎌倉幕府が滅ぶ。足利尊氏が征夷大将軍に任命される。応仁・文明の乱 勃発。宇美宮社務職の房精が、少弐政尚(頼忠)後援のもと、宇美八幡宮の楼門を再興する。大内義隆が宇美宮社務内房連に対し「宇美社神領六十一町五段地」を安堵する。キリスト教が伝わる(サビエルが鹿児島に到着する)。桶狭間の戦い。織田信長が今川義元を破る。

指定文化財一覧表

(令和7年1月31日現在)

国指定 (和暦, 西暦, 月) table with 4 items: 1. 特別史跡 大野城跡, 2. 史跡 光正寺古墳, 3. 重要文化財 筑前国四王寺毘沙門詣り, 4. 天然記念物 湯蓋の森・衣掛の森(クス).

福岡県指定 table with 4 items: 5. 有形民俗文化財 聖母宮神像, 6. 有形民俗文化財 宇美八幡宮の安産信仰に関する伝説地, 7. 天然記念物 蚊田の森(クス) 25本, 8. 無形民俗文化財 宇美神楽.

宇美町指定 table with 8 items: 9. 民俗文化財 宇美八幡宮「御神幸祭」, 10. 民俗文化財 四王寺毘沙門詣り, 11. 有形文化財 蜻蛉形鞘金具, 12. 有形文化財 馬の絵の描かれた提瓶, 13. 有形文化財 神領古墳群第2号墳出土品一括, 14. 有形文化財 薩摩塔(伝 仲哀天皇陵), 15. 有形文化財 黒田二十四騎図絵馬, 16. 有形文化財 独鈷杵, 17. 有形文化財 聖母宮 附 棟札(江戸時代資料3枚), 18. 有形文化財 聖母宮随神王像.



11 蜻蛉形鞘金具



12 馬の絵の描かれた提瓶



13 神領古墳群第2号墳出土品 青銅鏡



15 黒田二十四騎図絵馬



16 独鈷杵

和暦	西暦	月	主なできごと
明治三十八年	一九〇五	十一月	宇美駅開設。
大正八年	一九一九	五月	筑前参宮鉄道(旧国鉄勝田線)全線開通。
大正九年	一九二〇	十月	宇美町町制施行。
大正十一年	一九二二	三月	「湯蓋の森」・「衣掛の森」が国天然記念物に指定される。
昭和二年	一九二七	五月	四王寺毘沙門堂附近で終塚が発見される。
昭和三年	一九二八	六月	障子岳にて、大嘗祭御用農耕地の田植式が挙行される。
昭和七年	一九三二	七月	「大野城跡」が国指定史跡に指定される。
昭和十三年	一九三八	四月	三菱鉱業勝田鉱業所 創立。
昭和十四年	一九三九	十月	第二次世界大戦始まる。
昭和十五年	一九四〇	十月	「筑前国四王寺跡経塚群出土品」が国宝(現重要文化財)に指定される。
昭和十六年	一九四一	十一月	太平洋戦争始まる。
昭和二十年	一九四五	六月	福岡大空襲。
昭和二十一年	一九四六	八月	ポツダム宣言受諾。終戦。
昭和二十八年	一九四五	三月	日本国憲法 公布。
昭和三十一年	一九四六	十一月	「大野城跡」が、特別史跡に指定される。
昭和三十三年	一九四八	九月	「宇美八幡宮の安産信仰に関する伝説地」が福岡県有形民俗文化財に指定される。
昭和三十四年	一九四九	三月	「敷田の森」が福岡県天然記念物に指定される。
昭和三十五年	一九五〇	八月	「聖母宮神像」が福岡県有形民俗文化財に指定される。
昭和三十六年	一九六一	七月	宇美八幡宮が別表神社となる。
昭和三十八年	一九六三	七月	三菱勝田成鉱 閉山。
昭和四十八年	一九七三	十一月	「宇美神楽」が福岡県無形民俗文化財に指定される。
昭和五十年	一九七五	六月	「光正寺古墳」が国指定史跡に指定される。
昭和五十五年	一九八〇	六月	宇美町役場現庁舎 完成。
昭和六十年	一九八五	十月	「宇美町誌」刊行。
昭和六十五年	一九八〇	十一月	宇美町章を制定。
昭和七十年	一九八五	十月	宇美町立歴史民俗資料館 開館。
平成十八年	二〇〇六	三月	勝田線廃止。
平成三十年	二〇一八	五月	町花(ツクシシヤクナグ)と町木(くすの木)を制定。
令和二年	二〇二〇	六月	「大野城跡」が日本一〇〇名城に選定される。
令和四年	二〇二二	三月	宇美八幡宮で聖母宮式年大祭が施行される(二十五年に一度の聖母宮御神像御開帳)。 日本遺産「古代日本の西の都」(東アジアとの交流拠点)が変更・拡充され、関連自治体として宇美町が追加となる。 宇美町町制施行一〇〇周年。 『新修 宇美町誌』刊行。 宇美町町民憲章 制定。

和暦	西暦	月	主なできごと
永禄十一年	一五六八	十一月	宮崎宮座主麟清が兵一五〇〇を率いて唐山城に在城する(豊前覚書)。
天正年間	一五七三	十月	神武秀良が唐山城を築城(神武氏系図「山崎文書」)。
天正元年	一五七三	五月	室町幕府が滅ぶ。
天正二年	一五七四	五月	大友氏・戸次氏の庇護のもと、願主として社家の武内房連 神武秀宗が宇美宮社殿の屋根の葺き替えを行う。
天正四年	一五七六	十月	神武秀宗が唐山城を築城(宇美八幡宮大宮司神武氏由緒書「筑前町村書上帳」)。
天正六年	一五七八	十一月	織田信長が安土城の築城を開始する。→ 天正七年完成。 神武秀宗が大友氏に反旗を翻し、管限原で戦う(神武氏系図「山崎文書」)。
天正七年	一五七九	六月	宇美村の矢野・神武氏が秋月氏に内通し、極楽寺・障子岳の山中に立て籠り、大友氏に抵抗する。戸次鑑連勢がこれを打ち破る(豊前覚書)。
天正十年	一五八二	六月	戸次鑑連が唐山城を修築し、東城は宮崎宮座主方清に、西城は由布甲斐守宗秀に勤番させる(豊前覚書)。
天正十三年	一五八五	七月	本能寺の変。
天正十四年	一五八六	七月	豊臣秀吉が関白となる。
天正十五年	一五八七	五月	岩屋城の戦い。高橋紹運戦死。
天正十八年	一五九〇	九月	豊臣秀吉が九州を統一する。
慶長五年	一六〇〇	十月	宇美八幡宮の神領が豊臣秀吉により没収される。 豊臣秀吉が全国を統一する。
慶長八年	一六〇三	九月	関ヶ原の戦い。
慶長十九年	一六一四	十一月	黒田長政が筑前国を拝領する。
慶長二十年	一六一五	四月	徳川家康が征夷大將軍に任命される。
元和三年	一六一七	四月	大坂冬の陣。 大坂夏の陣。
正保三年	一六四六	三月	宇美八幡宮の本社・拝殿・楼門について、黒田長政が修補(葺き替え)を行う。
天和二年	一六八二	三月	宇美八幡宮の本社・拝殿・諸末社・式内社・薬師堂・本地堂などについて、二代藩主の黒田忠之が、翌四年にかけて新規に建立する。 宇美八幡宮の鐘楼・神楽殿について、三代藩主の黒田光之が、新規に建立する。
元禄五年	一六九二	三月	四代藩主の黒田綱政から宇美八幡宮へ「古制御宮之圖(宇美八幡宮境内古図)」が奉納される。
元禄六年	一六九三	三月	宇美八幡宮の石鳥居について、黒田綱政が造営を行う。 → 翌年六月に成就。
元禄七年	一六九四	三月	貝原好古撰集「筑前国粕屋郡宇美八幡宮縁起」が黒田綱政から寄進される。

# 宇美町の歴史についてもっと知りたい方はこちら!

## ○『新修 宇美町誌』

町制施行100周年記念事業として、2020年に刊行。

A4版 オールカラー 上下巻セット 本文613ページ

上巻：総論／生物・自然環境／地質・古環境／原始古代／中世／近世／近代

下巻：宇美八幡宮／民俗／現代／年表

※一般向け有償頒布は終了しています。

※宇美町立図書館で読むことができます

(貸し出しも可)。

## ○広報うみ 裏表紙「宇美町歴史探検」

2010年7月から連載スタート(毎月掲載)。

考古学や文献学からひも解く町の歴史や伝統行事など、幅広いジャンルを紹介しています。

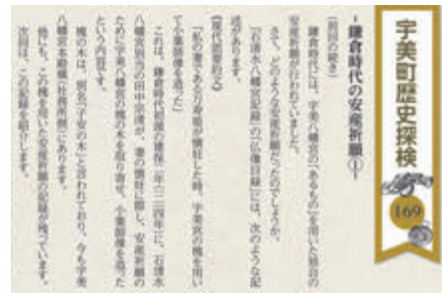


宇美町ホームページ  
広報うみバックナンバー



宇美町について  
学ぶ専門書なら  
これ!

宇美町の  
歴史研究最新情報を  
知りたいなら  
これ!



和暦	西暦	月	主なできごと
元禄十年	一六九七	十一月	宇美八幡宮の本社・拝殿 神楽殿・本地堂・鐘楼などについて黒田綱政が葺き替えを行う。
宝永二年	一七〇五	十一月	宇美八幡宮の神功皇后御殿について、黒田綱政が造営を行う。 → 翌年四月に成就。
寛政四年	一七九二	四月	初代小林作五郎が小林酒造を創業する。
寛政十一年	一七九九	八月	光格天皇第四皇子ご誕生祈願のため、宮中の使者が宇美八幡宮を参拝する。
寛政十二年	一八〇〇	八月	華台坊と博多横町の宮崎金平らが発起人となり、博多・宇美・太宰府の人々が力を合わせて、四王寺山三十三体石仏を建立する。
文化六年	一八〇九	九月	四王寺山に烽火台が設置され、亀井昭陽が四王寺山の烽火番を務める。
文化九年	一八一二	九月	伊能忠敬測量隊が宇美を測量する。
天保五年	一八三四	八月	初代小林作五郎が糟屋郡十九か村の大庄屋に任命される。
天保十二年	一八四一	八月	四王寺山の焼米ヶ原に玄清法印の墓が再建される。
嘉永六年	一八五三	八月	小林虎太が小林酒造の家督を次ぐ。
文久三年	一八六三	八月	四王寺山で華台坊による雨乞い祈禱が行われる。
元治二年	一八六五	九月	八月十八日の政変。三条実美・三条西季知・東久世通禧・壬生基修・四条隆調・澤宣嘉・錦小路頼徳ら尊皇攘夷派の公家が京都から追放される(七月落し)。
慶応元年	一八六五	九月	小林虎太が「黒田二十四騎図絵馬」を宇美八幡宮へ奉納する。
慶応二年	一八六六	二月	三条実美ら五卿(三条実美・三条西季知・東久世通禧・壬生基修・四条隆調)が太宰府延寿王院に入る。
慶応三年	一八六七	二月	乙丑の獄(福岡藩が藩内の尊皇攘夷派を弾圧)。
元治元年	一八六八	六月	三条西季知・東久世通禧が宇美八幡宮を訪れる。
明治元年	一八六八	六月	東久世通禧が宇美八幡宮を参詣する。
明治四年	一八七一	六月	三条実美と三条西季知が宇美八幡宮を参詣する。
明治五年	一八七二	六月	大政奉還。
明治十九年	一八八六	十月	東久世通禧・壬生基修・四条隆調が竹亭を訪れる。
明治二十二年	一八八九	十一月	五卿が太宰府を離れ、京都へ戻る。
明治二十四年	一八九一	十一月	五箇条の御誓文。
明治三十四年	一九〇一	三月	宇美八幡宮の仏像が神仏分離により須恵新原へ遷座される。
明治三十八年	一九〇五	三月	廃藩置県。
		七月	宇美神社が村社に列格される。
		十一月	宇美神社が村社に列格される。
		十二月	宇美八幡宮社殿改築。
		十二月	宇美村、炭焼村、四王寺村、井野村が合併し、宇美村が誕生。
		十二月	宇美神社が原社に昇格される。
		十二月	宇美神楽が原社に昇格される。
		十二月	青木輪の輔氏らにより宇美神楽が再興される。
		十二月	博多湾鉄道(現JR香椎線)西戸崎ー宇美間開通(全通)。

## 協力者

「宇美町歴史ロマンの旅ガイドブック」作成にあたり、下記の方々に写真や資料提供等についてご協力をいただきました。  
記して感謝申し上げます。

宇美八幡宮・四王寺自治会・障子岳自治会極楽寺地区・筥崎宮・福岡県教育庁文化財保護課・福岡県立四王寺県民の森協議会・福岡市博物館（五十音順・敬称略）

## 参考文献

以下、すべて、宇美町町誌編さん委員会編『新修 宇美町誌』2020年

### P4～11 「宇美八幡宮」

- ・森 弘子「第1章 概説」「第4章 宇美八幡宮の祭り」「第3章 信仰と伝承」
  - ・渡邊 俊「第2章 歴史 第1～3節」
  - ・松尾尚哉「第5章 建造物」
  - ・作田耕太郎「第7章 天然記念物」
- ※すべて、第8編宇美八幡宮

### P12～19 「特別史跡 大野城跡」

- ・赤司善彦「第2章 白村江の戦いと大野城」第4編古代
- ・松川博一「第4章 四天王寺の創建と経塚の造営」第4編古代
- ・井形 進「第6章第1節 四王寺山の三十三観音霊場」第6編近世

### P20～21 「国指定史跡 光正寺古墳」

- ・重藤輝行「第4章 古墳時代」
  - ・平ノ内幸治「第5章 魏志倭人伝と不弥国」
- ※すべて、第3編原始

### P22～23 「宇美の城跡」

- ・松尾尚哉「第5章第3節 城跡」第5編中世

### P24～25 「宇美町にあった二つの鉄道路線」

- ・渡部邦昭「第4章 宇美の鉄道」第7編近代

### P26～27 「意外と知られていない宇美の歴史」

- ・渡邊 俊「第2章第3節 モンゴル襲来の影響」第5編中世